

# KQ-T55・T56・T57・T58・T59シリーズ スリングシート

## まえがき

このたびは、スリングシートをお買い上げいただき、まことにありがとうございました。  
この「取扱説明書」には、スリングシートを安全にお使いいただくための注意事項や使用方法などを記載しています。

- ご使用の前に、この取扱説明書およびスリングシートと併用する介護リフト(以下、リフト)などの取扱説明書をよくお読みいただき、スリングシートを正しく効果的にお使いください。
- この「取扱説明書」はお読みになった後も、いつでも見られる場所に保管してください。
- お買い上げの製品は、改良などにより、この「取扱説明書」の内容と一部異なる場合があります。
- 動作範囲・寸法・角度・質量などの数値の記載がある場合、その数値には多少の誤差が含まれます。  
特別なものを除きこの「取扱説明書」では、表示を見やすくするため、約・およそといった言葉を省略しております。
- ご不明な点がございましたら、お買い上げの販売店または直接弊社までお問い合わせください。

## 使用目的

- スリングシートは介護を受ける方をリフトで移乗する際に使用する吊り具です。  
介護を受ける方の身体の状態や大きさに適したものをご使用ください。

## 適合するリフト

- リフトのハンガーフック幅35cm～60cmで、ハンガー両側にフックが付き、片側1フック式および片側2フック式のものをご使用になれます。  
※介護を受ける方の身体状況や体型により、適したリフトをご使用ください。

# S L I N G S E A T

■スリングシートの各タイプは、ご利用者の身体状況や使用目的にあわせて作られていますので、ご利用者の状況にあったスリングシートをお選びください。

スリングシートの選択に際しては、専門の医師や理学療法士、作業療法士などに相談してください。

サイズ表示部  
スリングサイズカラー

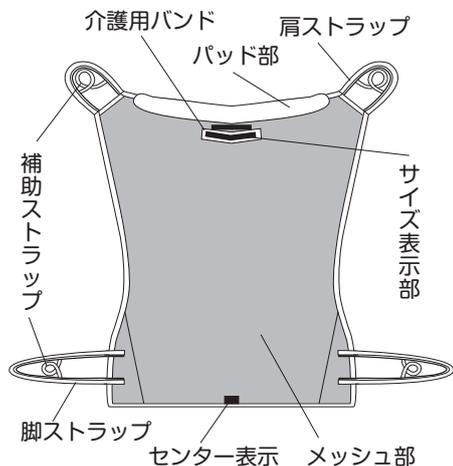
S	赤
M	黄
L	緑
LL	紫

## シート型スリングシート(ローバック・ハイバック)の特徴

1枚のシートで身体を包み込みます。身体との接触面積が大きく、股関節にかかる力が少ないので、ご利用者様への負担が軽減されます。また、水切れもよいので入浴に適しています。

※座位で着脱はできません。臥位で行います。車いす着座後は敷き込んだままになります。

※入浴用として使用する場合は、湯温40℃以下で使用してください。

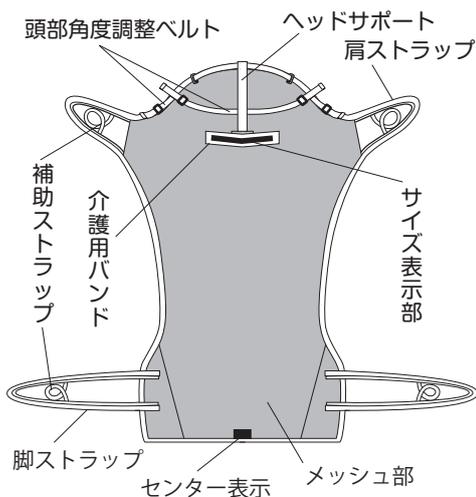


### KQ-T55シリーズ(KQ-T55S・T55M) シート型スリングシート

#### ローバック

身体背面の肩から太ももまでを包み込むハンモックタイプのスリングシートです。

- 最大使用者体重 120kg
- 素 材 メッシュ部:ポリエステル100%  
肩および脚ストラップ、補助ストラップ、  
介護用バンド:ナイロン100%  
パッド部:発泡ポリエチレン100%  
サイズ表示部:ポリプロピレン100%
- サイズ S(身長~145cm) M(身長145~175cm)
- 適 応 骨盤部の支持で座れる方。



### KQ-T56シリーズ(KQ-T56S・T56M・T56L) シート型スリングシート

#### ハイバック

身体背面の頭部から太ももまでを包み込むハンモックタイプのスリングシートです。

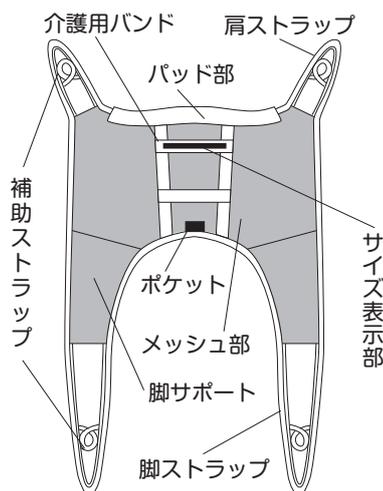
- 最大使用者体重 120kg
- 素 材 メッシュ部:ポリエステル100%  
肩および脚ストラップ、補助ストラップ、  
介護用バンド:ナイロン100%  
頭部角度調整ベルト:ナイロン100%  
ヘッドサポート(芯材):軟質ポリエチレン100%  
サイズ表示部:ポリプロピレン100%
- サイズ S(身長~145cm) M(身長145~160cm)  
L(身長160~175cm)
- 適 応 頭部の支持を必要とする方。



## 脚分離型スリングシート(ローバック・ハイバック)の特徴

片足ずつつけて支えます。座位で着脱できる標準型のスリングシートです。身体との接触面積がシート型について大きいので、吊りあげが安定しています。

※身体機能との適合範囲が比較的に広いですが、股関節の固定力が弱いとお尻が落ちやすくなります。



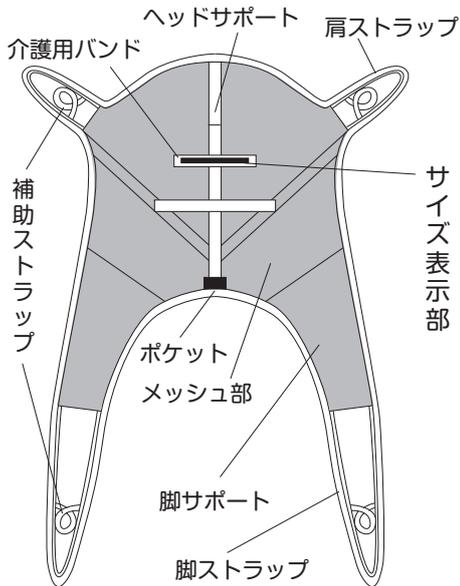
### KQ-T57シリーズ(KQ-T57S・T57M・T57L) 脚分離型スリングシート

#### ローバック

身体背面の脇から太ももまでを包み込むスリングシートです。

- 最大使用者体重 120kg
- 素 材 メッシュ部:ポリエステル100%  
肩および脚ストラップ、補助ストラップ、  
介護用バンド:ナイロン100%  
脚サポートクッション材:発泡ポリエチレン100%  
パッド部クッション材:発泡ポリエチレン100%  
サイズ表示部:ポリプロピレン100%
- サイズ S(身長~145cm) M(身長145~160cm)  
L(身長160~175cm)
- 適 応 骨盤部の支持で座れる方。





## KQ-T58シリーズ (KQ-T58S・T58M・T58L・T58LL) 脚分離型スリングシート

### ハイバック

身体背面の頭から太ももまでを包み込むスリングシートです。

- 最大使用者体重 120kg
- 素材 メッシュ部:ポリエステル100%  
肩および脚ストラップ、補助ストラップ、  
介護用バンド:ナイロン100%  
脚サポートクッション材:発泡ポリエチレン100%  
ヘッドサポート(芯材):軟質ポリエチレン100%  
サイズ表示部:ポリプロピレン100%
- サイズ S(身長~145cm) M(身長145~155cm)  
L(身長155~165cm) LL(身長165~175cm)
- 適応 頭部の支持を必要とする方。



## セパレート型スリングシート(胸スリング・脚スリング)の特徴

2本のベルトで背と太ももを支えます。着脱はもっとも簡単です。吊りあげた状態で下着の着脱ができるので、トイレへの移乗や排泄介助にも利用できます。 ※身体機能との適合範囲がもっとも狭く、状態によってはベルトの間から抜け落ちる、ベルトの上を滑り落ちる可能性があります。

### KQ-T59シリーズ(KQ-T59S・T59M)

#### セパレート型スリングシート(胸スリングと脚スリングをセットで使用します)

- 最大使用者体重 120kg
- 適応 頭部を自力で支えることができ、肩の固定性がよい方に適しています。  
※股関節の角度を自分の力で維持できない方は、使用できません。

#### 胸スリング

脇への圧迫を軽減できるベルトタイプのスリングシートです。

- 素材 メッシュ部:ポリエステル100%  
肩ストラップ、補助ストラップ、着脱サポート:ナイロン100%  
仕切りベルト:ナイロン100%  
胸ベルトクッション材:発泡ポリエチレン100%  
胸ベルト固定部面ファスナー:ナイロン100%  
パッド部クッション材:発泡ポリエチレン100%  
サイズ表示部:ポリプロピレン100%
- サイズ S(胸囲60~85cm) M(胸囲80~100cm)

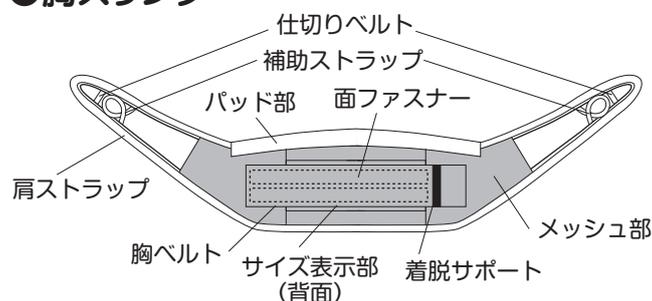
#### 脚スリング

薄型なので太ももへの引き込みが容易です。また、太ももへの圧迫を軽減できるよう幅を広くしたベルトタイプのスリングシートです。

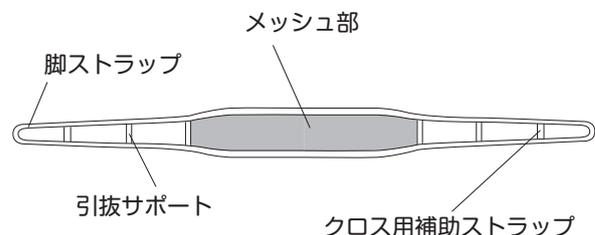
- 素材 メッシュ部:ポリエステル100%  
メッシュ部芯材:軟質ポリエチレン100%、クッション材:発泡ポリエチレン100%  
脚ストラップ、クロス用補助ストラップ、引抜サポート:ナイロン100%  
サイズ表示部:ポリプロピレン100%
- サイズ フリー



#### ●胸スリング



#### ●脚スリング



## 安全に使用するための注意事項

■必ずご使用の前にこの「安全に使用するための注意事項」をよくお読みいただき、正しくお使いください。  
ここに示した注意事項は製品を安全にお使いいただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。誤った取扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度に応じて「▲警告」と「▲注意」の二つに区分しています。

いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。

 <b>警告</b> けいこく	この表示を無視して誤った取扱いをすると、死亡または重傷（骨折・圧迫・麻痺 <sup>まひ</sup> など）を負う可能性が想定される内容を示しています。
 <b>注意</b> ちゅうい	この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が軽傷（打撲・すり傷・切り傷など）を負う可能性および物的損害の発生が想定される内容を示しています。

※取扱説明書をお読みになった後は、いつでも見られるところに必ず保管してください。



### ■漂白剤は使用しないでください

スリングシートが破損・変形して、けがをするおそれがあります。

### ■スリングシートは消耗品です。ご使用前には、スリングシートのストラップ（ループ）の摩耗や糸のほつれ、メッシュ部の破れがないことを確認してください

摩耗・損傷した状態で使用するとスリングシートが破損し、介護を受ける方が落下してけがをするおそれがあります。早めに新しいスリングシートと交換してください。

### ■スリングシートが破損（ほつれなど）した場合は、直ちに使用を中止してください

思わぬけがをするおそれがあります。

### ■最大使用者体重を超える方を吊りあげないでください

- スリングシートが破損・変形して、けがをするおそれがあります。
- 使用するリフトにも最大使用者体重が定められています。リフトの最大使用者体重を超える方を吊りあげないでください。リフトが破損・変形して、けがをするおそれがあります。

### ■スリングシートは正しく装着してください

介護を受ける方を吊りあげたときに介護を受ける方がスリングシートから抜け落ちたり皮膚がこすれたりするなどして、けがをするおそれがあります。

### ■スリングシートのストラップはリフトのハンガーフックに確実に掛けてください(図1)

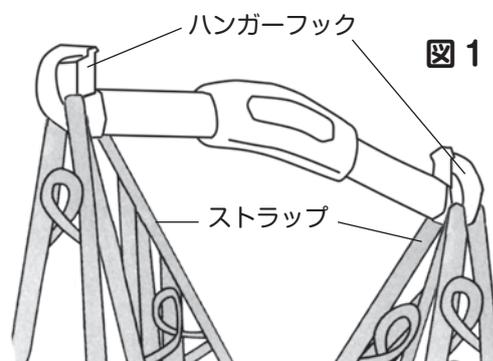
ストラップが確実に掛かっていない状態でリフトを操作すると、介護を受ける方がスリングシートから落下して、けがをするおそれがあります。

### ■使用后、スリングシートが当たっていた大腿部の下などの皮膚に変化があれば、直ちに使用を中止し、医師の診断を受けてください

思わぬけがをするおそれがあります。

### ■スリングシートは、介護を受ける方の身体の状態に適したものをご使用ください。

スリングシートの選択に際しては、専門の医師や理学療法士、作業療法士などに相談してください。介護を受ける方の状態にあったスリングシートを使用しないと、思わぬけがをしたり、皮膚に異常が起こったりするおそれがあります。



## ■ハンガーフック断面が角張っているリフトには使用しないでください(図2)

スリングシートのストラップの摩耗や縫製のほつれなどにより、リフトからスリングシートが外れ、介護を受ける方が落下してけがをするおそれがあります。

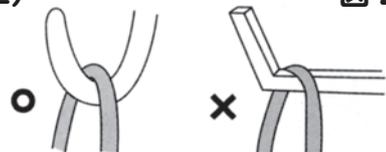


図2

■介護を受ける方の身体の状態や大きさにあった、適切なスリングシートの種類やサイズを使用してください  
種類やサイズのあわないものを使用すると、正しい吊りあげ姿勢がとれないばかりでなく、落下してけがをするおそれがあります。

■吊りあげ時にスリングシートが車いすなどに引っ掛かっていることを確認して、リフトを操作してください  
スリングシートが破損したり、バランスを崩し思わぬけがをしたりするおそれがあります。

## ■スリングシートに火気や先のとがったものを近づけないでください

- スリングシートの近くで熱器具を使用しないでください。変質・変形・火災のおそれがあります。
- スリングシートが破損するおそれがあります。

図3

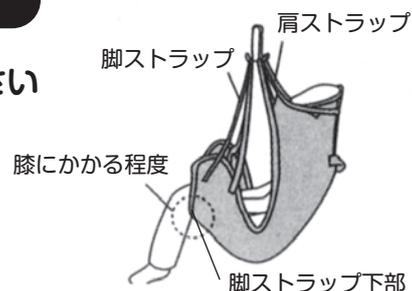
## シート型(KQ-T55・T56シリーズ)のみ

■座った姿勢が不安定で、前に倒れる傾向の方には使用しないでください

スリングシートから落下して、けがをするおそれがあります。

■脚ストラップ下部が、膝に掛かる程度に装着してください(図3)

太ものおしり側に引き込むと、落下してけがをするおそれがあります。



■ストラップはねじれなどの無いようにリフトのハンガーフックに掛けてください

ストラップにねじれがあると左右の長さが変わり、リフトで吊りあげた際に身体が傾き、大腿への圧迫の原因となります。

■介護を受ける方を長時間吊りあげないでください

長時間の吊りあげは介護を受ける方の身体の負担となり症状を悪化させるおそれがあります。

## 使用する際の確認事項

- リフト使用中は、介護を受ける方に付き添ってください。
- 介護を受ける方が不快感を持つことや、スリングシートから滑り落ちる危険を防ぐため、リフトの試運転とスリングシートの試用を行ってください。
- 安全に使用するため、スリングシートと併用するリフトの最大使用者体重を確認してください。
- 吊りあげるときには、介護を受ける方の膝を軽く押さえながらゆっくりと行ってください。また、吊りあげる高さは介護する方の目線までにとどめてください。(図4)

※吊りあげていく過程で、痛みがないかなど、声をかけながら行ってください。  
初めての方は、吊りあげ時に身体が揺れると不安を感じる場合があります。  
また、必要以上に高く吊りあげないようにしてください。

- シート型・脚分離型スリングシートの場合、吊りあげたときに肩の部分がスリングシートによって圧迫されることがあります。その際は、肩と肘を持って軽く前に引いてあげることによって圧迫は軽減します。(図5)



図4

※イラストは車いすの場合で説明しています。

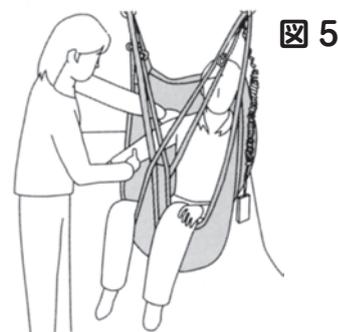
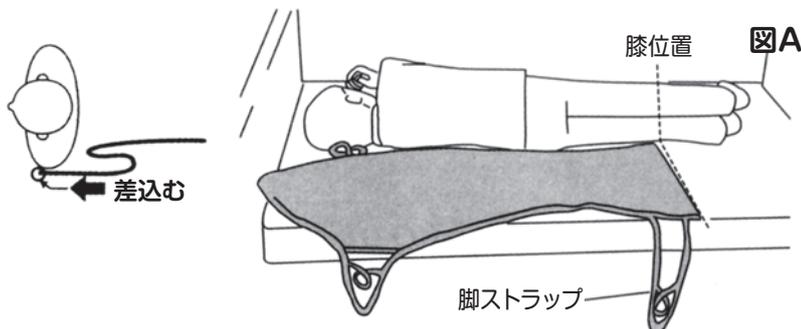


図5

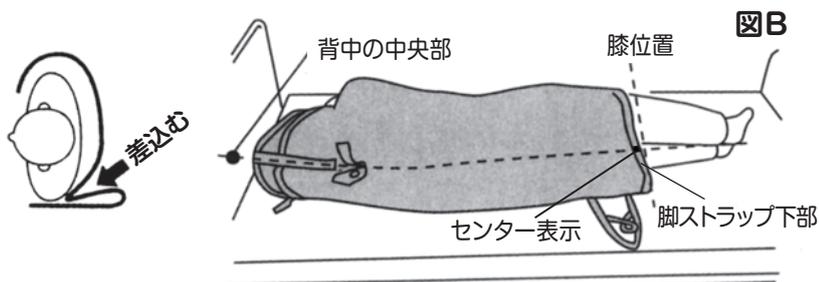
# シート型スリングシート(KQ-T55・T56シリーズ)

## 背あげ機能のあるベッドでの装着

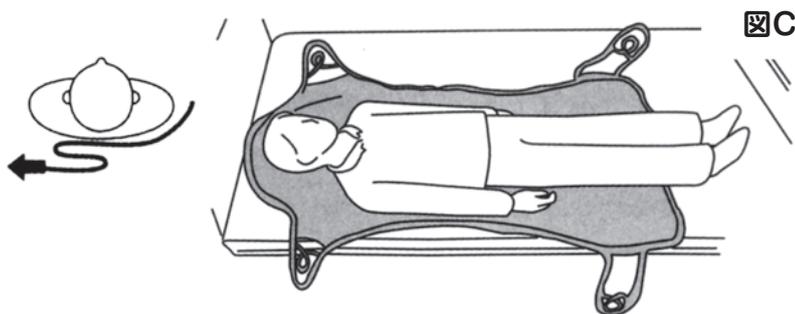
- ① 介護を受ける方を寝返りさせ、スリングシートを図Aのように折り返してください。このとき、スリングシートの端を身体の奥へしっかりと差込んでおいてください。  
※スリングシートの表裏を間違えないように注意してください。



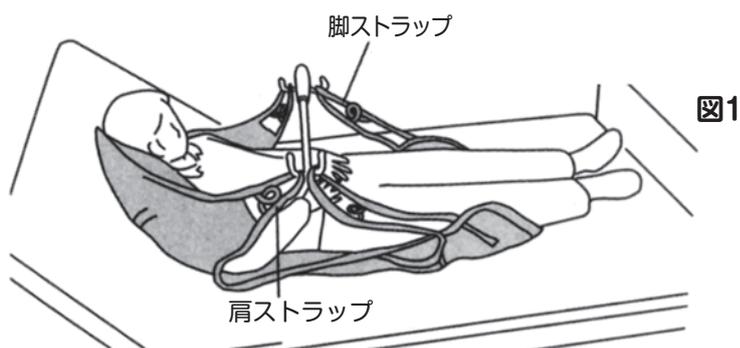
- ② スリングシートのセンター表示が、背中中央部になるようにしてください。このとき、脚ストラップ下部が膝のあたりになるようにしてください。(図B)  
※スリングシートの中央と背中中央がずれた状態で装着すると、リフトで吊りあげたときに身体が傾いたりしますので注意してください。



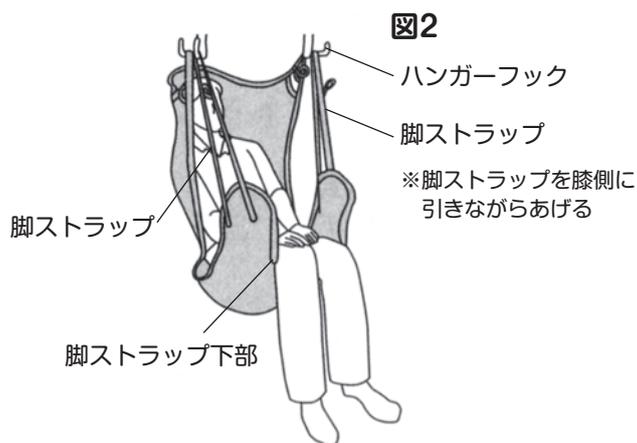
- ③ 介護を受ける方を仰向けにし、差込んでいた部分を引き出した後、しわができないように広げてください。(図C)



- ④ ベッドの背あげを行ってください。ストラップにねじれがないことを確認しながら図1のようにリフトのハンガーフックに掛けてください。  
※リフトを少しずつあげ、上半身がリフトによって起き上がった状態(お尻がベッドのマットレスから離れる前の状態)で一度止め、太ももの下および背中部分にしわやねじれがないことをもう一度確認してください。



- ⑤ ハンガーフックにストラップが掛かっていることを確認して、脚ストラップ下部がずりあがらないように、脚ストラップを膝側に引きながら、ゆっくりとあげてください。(図2)



## 背あげ機能のないベッドでの装着

### ①～③は5ページと同様です

④ 介護を受ける方の首と肩を支えて上半身を起こしてください。ストラップにねじれがないことを確認しながら、図1のようにリフトのハンガーフックに掛けてください。リフトを少しずつあげ、上半身がリフトによって起きあがった状態（お尻がベッドのマットレスから離れる前の状態）で一度止め、太ももの下および背中部分にしわやねじれがないことをもう一度確認してください。

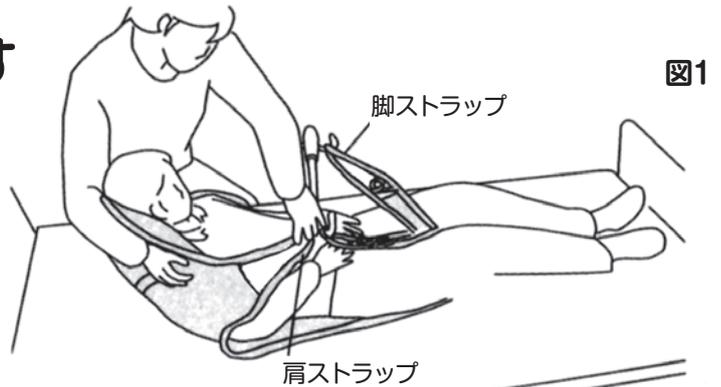


図1

⑤ ハンガーフックにストラップが掛かっていることを確認して、脚ストラップ下部がずりあがらないように、脚ストラップを腰側に引きながら、ゆっくりあげてください。（図2）

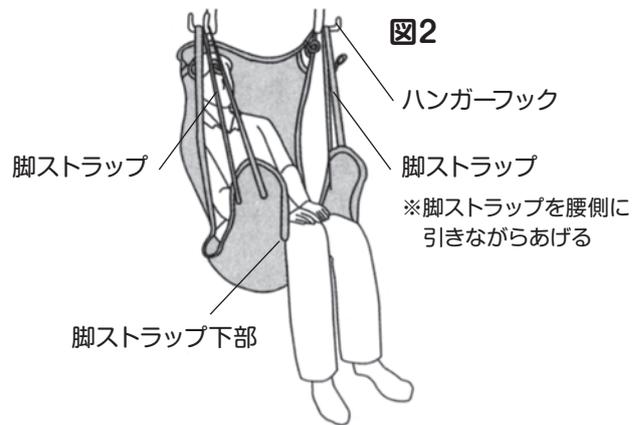
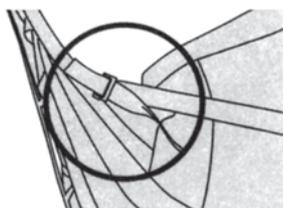


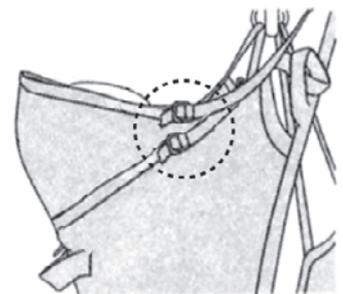
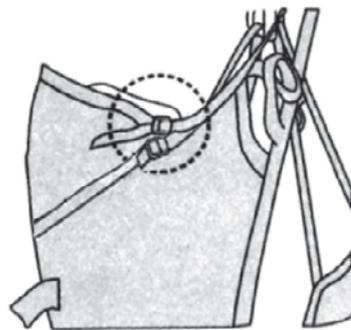
図2

### 頭部角度調節ベルトについて（KQ-T56シリーズのみ）



#### ●頭部角度調節ベルト

頭を支える角度は上図の調節部で調節できます。



### 補助ストラップの使用方法

#### ●基本姿勢

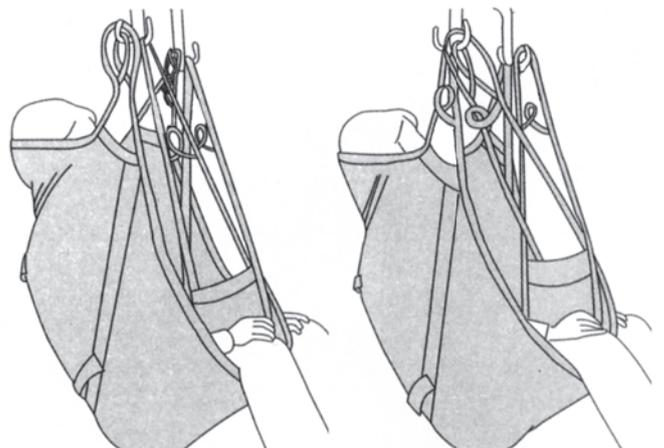
肩ストラップ・脚ストラップとも最上段にしてください。

#### ●上体を起こしたい場合

脚ストラップはそのまま、肩ストラップの1～2段目の補助ストラップを掛けてください。

#### ●上体を寝かせたい場合

肩ストラップはそのまま、脚ストラップの1～2段目の補助ストラップを掛けてください。



# 脚分離型スリングシート(KQ-T57・T58シリーズ)

## 背あげ機能のあるベッドでの装着

- ① ベッドの背をあげてください。介護を受ける方の上半身を支えながら少し前に倒してください。もう一方の手でスリングシート下部のポケットに指先を入れ、ベッドのマットレスの間に深く差込み、仙骨を十分に包み込めるようにしてください。(図1)

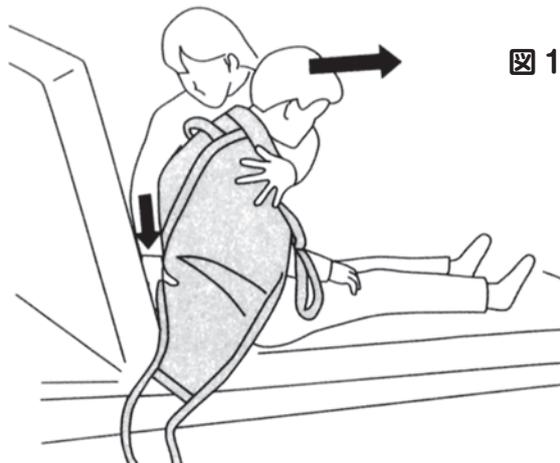


図1

- ② スリングシートの脚サポートを持ち、図2のようにお尻の下に差込んで、手前に引きながらお尻の横を十分に覆うように、滑らすように引込んでください。



図2

- ③ 左右の脚ストラップの長さが同じであることを確認してください。

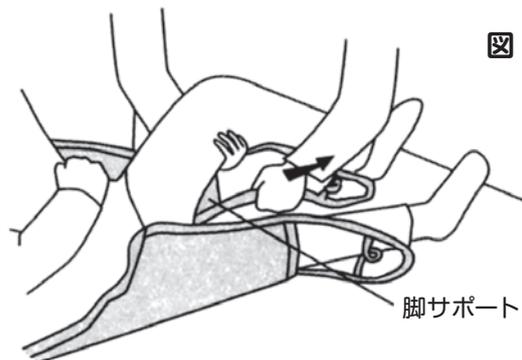


図3

- ④ 介護を受ける方の膝を立て、スリングシートの脚サポートを太ももの下に通し(図3)、股の間に抜き出してください(図4)。このとき太ももにしわがよらないように広げてください。(反対側も同じ要領で行ってください)



図4

- ⑤ 脚ストラップの両方の長さや、ねじれがないかを確認しながら脚ストラップの間を通して交差させてください。(図5)  
 ※脚ストラップにねじれがあると左右の長さが変わり、リフトで吊りあげたときに身体が傾いたり、太ももの部分に圧迫が加わりますので注意してください。

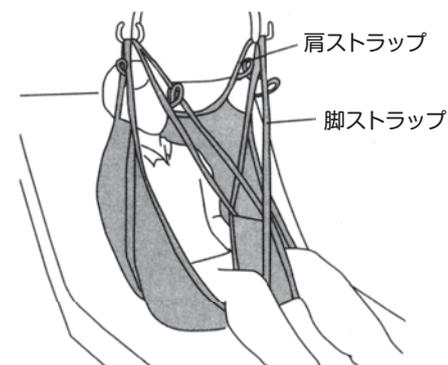
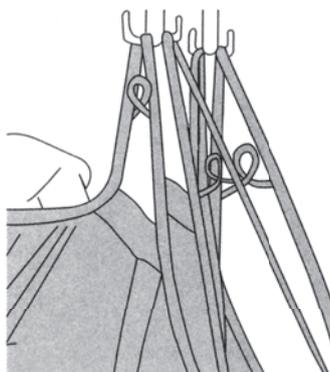


図5

- ⑥ 肩ストラップ、脚ストラップをリフトのハンガーフックに掛けてください。(図6、7)  
 ※リフトを少しずつあげ、上半身がリフトによって起き上がった状態(お尻がベッドのマットレスから離れる前の状態)で一度止め、太ももの下および背中部分にしわやねじれがないことをもう一度確認してください。

図6

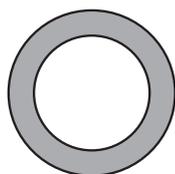
図7



- ⑦ ストラップがハンガーフックに掛かっていることを確認して、脚ストラップが股関節に近づきすぎないように脚ストラップを膝側に引きながら、ゆっくりとあげてください。

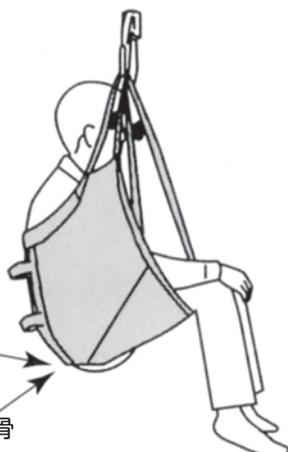
 <p>けいこ <b>警告</b></p>	<p>スリングシートの底部が、介護を受ける方の仙骨の位置までカバーしていることを確認してください。仙骨位置までカバーしていないと、吊りあげたときに身体が抜け落ち、けがをするおそれがあります。また、脇や股を圧迫し、苦痛をまねくおそれがあります。</p>
--	---

正しい吊りあげ姿勢

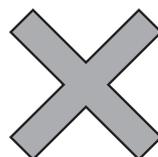


スリングシートの底部

仙骨



悪い吊りあげ姿勢

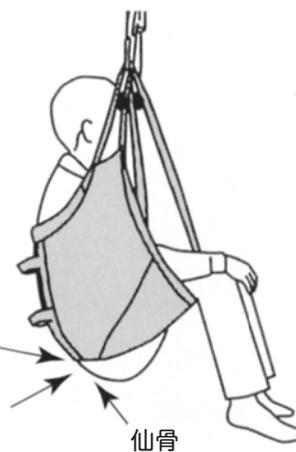


お尻が出すぎている

スリングシートの底部

ずれている分

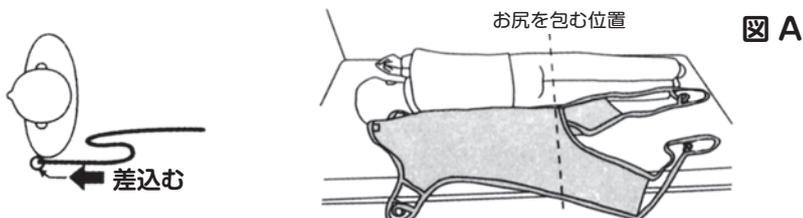
仙骨



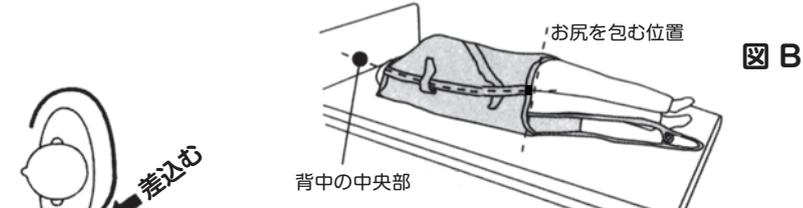
# 脚分離型スリングシート(KQ-T57・T58シリーズ)

## 背あげ機能のないベッドでの装着

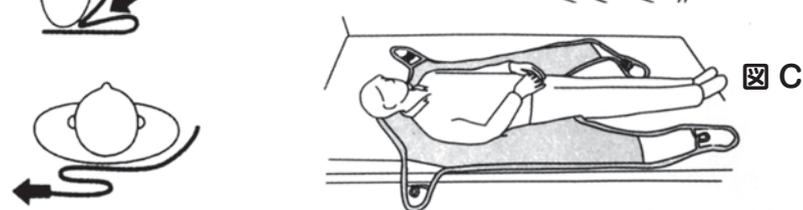
① 介護を受ける方を寝返りさせ、スリングシートを右の図Aのように折り返してください。このとき、スリングシートの端を身体の奥へしっかり差込んでおいてください。また、スリングシートの表裏を間違えないように注意してください。



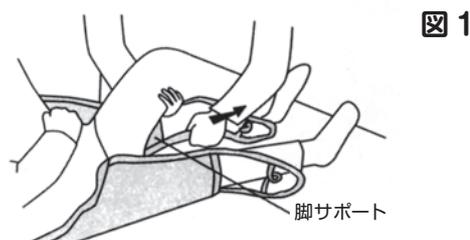
② スリングシートの中央が背中中央になるようにしてください。スリングシート下部がお尻を包み込める位置になるようにしてください(図B)。このとき、スリングシートの中央と背中の中央がずれた状態で装着すると、リフトで吊りあげたときに身体が傾いたりしますので注意してください。



③ 介護を受ける方を仰向けにし、差込んでいた部分を引き出した後、しわができないように広げてください。(図C)



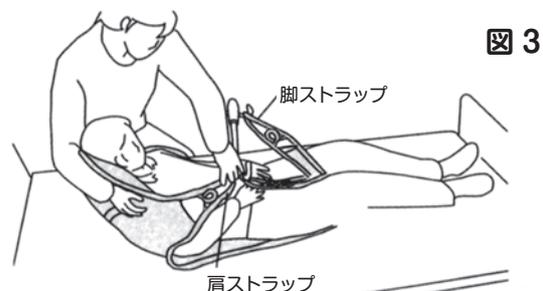
④ 介護を受ける方の片膝を立て、脚サポートを太ももの下から通してください(図1)。お尻をおおい、しわを作らないように引いてください。(反対側も同じ要領で行ってください)



⑤ 脚ストラップの両方の長さや、ねじれがないかを確認しながら脚ストラップの間を通して交差させてください(図2)。脚ストラップにねじれがあると左右の長さが変わり、リフトで吊りあげたときに身体が傾いたり、太ももの部分に圧迫が加わりますので注意してください。

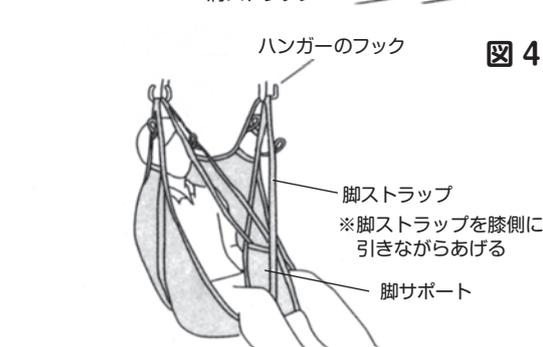


⑥ 介護を受ける方の首と肩を支えて上半身を起こしてください。ストラップにねじれがないことを確認しながら、図3のように肩ストラップ、脚ストラップをリフトのハンガーフックに掛けてください。(図3)



⑦ 介護を受ける方の首と肩を支えて上半身を起こしながらリフトを少しずつあげてください。(図3、4)

⑧ 上半身がリフトによって起き上がった状態、(お尻がベッドのマットレスから離れる前の状態)で一度止め、太ももの下および背中部分にしわや、ねじれがないかをもう一度確認してください。



⑨ リフトのハンガーフックにストラップが掛かっていることを確認して、脚サポートが股関節に近づきすぎないように脚ストラップを膝側に引きながら、ゆっくりあげてください。

## 車いす上での装着

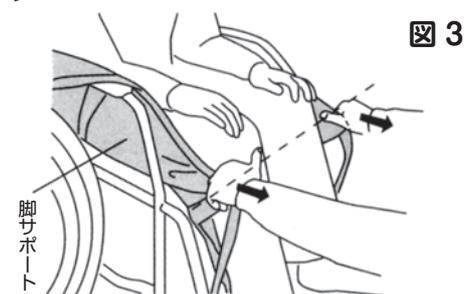
- ① 介護を受ける方の上半身を支えながら少し前に倒してください。もう一方の手でスリングシートの下部のポケットに指先を入れ、お尻と車いすのシートに深く差込み、仙骨を十分に包み込めるようにしてください。(図1)



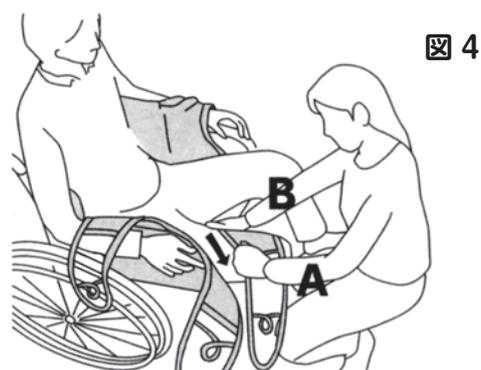
- ② スリングシートの脚サポートを車いすのアームレストと介護を受ける方との間に立てるように置いてください。お尻の横に手を入れて、スリングシートの端がねじれないように軽く押さえながら、もう一方の手で脚ストラップを引いて(A)、お尻の横を十分に覆うように引込んでください。(図2)



- ③ 両方ともお尻を覆うことができれば、左右のスリングシートの脚サポートの長さをあわせてください。このとき両膝を目安にすると確認しやすくなります。脚サポートの長さをあわせながら、お尻にかかる部分を深く引込んでください。(図3)長さがあっていないと吊りあげたときに身体が傾いたり、太ももの部分に圧迫が加わりますので注意してください。



- ④ ももを少し持ち上げて、スリングシートの脚サポートを太ももの下に差込んでください(太もも部を持ち上げにくい方は、介護する方の膝に介護を受ける方の足を乗せて行ってください)。股間に近い方の脚ストラップを片手で持ち、Aの方向に引きながら、反対の手(B)で太ももの下にしわが寄らないように広げながら引込んでください。(図4)(反対側も同じ要領で行ってください)



- ⑤ 脚ストラップの両方の長さやねじれがないことを確認しながら脚ストラップの間を通して交差させてください(図5)。脚ストラップにねじれがあると左右の長さが変わり、リフトで吊りあげたときに身体が傾いたり、太ももの部分に圧迫が加わりますので注意してください。



- ⑥ 肩ストラップ、脚ストラップをリフトのハンガーフックに掛けてください。リフトを少しずつあげ、お尻が車いすの座面から離れる前の状態で一度止め、太ももの下および背中部分にしわやねじれがないことをもう一度確認してください。

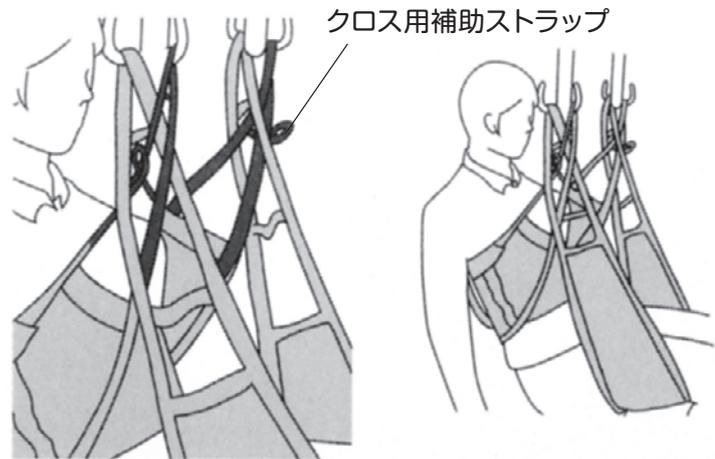
- ⑦ 肩ストラップ、脚ストラップをリフトのハンガーフックに掛けてください。肩ストラップ、脚ストラップがリフトのハンガーフックに掛かっていることを確認して、脚サポートが股関節に近づきすぎないように脚ストラップを膝側に引きながら、ゆっくりとあげてください。

# セパレートスリング(KQ-T59シリーズ)

## クロス用補助ストラップについて

図1

クロス用補助ストラップの下側に胸スリングの肩ストラップを通して、リフトのハンガーフックに掛けてください。(図1)



- 胸ベルトの面ファスナーの重なり部が20cm以上であることを確認してから使用してください。20cm以下ですと、面ファスナーが外れて落下し、けがをするおそれがあります。

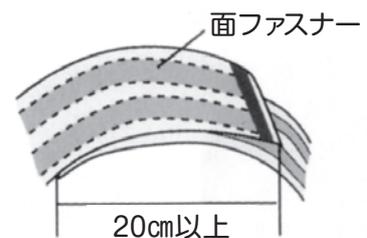
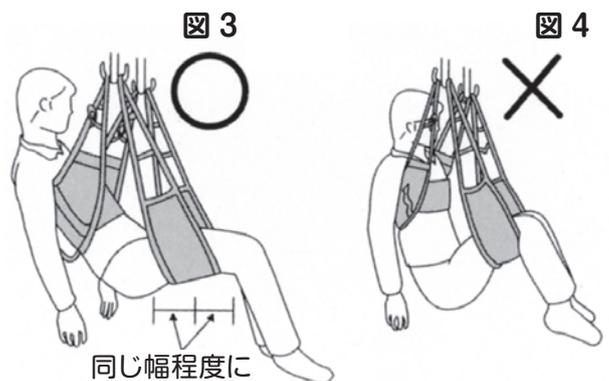


図2

- 右図を参照して、吊りあげ姿勢に注意してください。吊りあげ姿勢が悪いと身体が抜け落ち、けがをするおそれがあります。このような場合はいったん降ろして、装着しなおしてください。



- 股関節の角度を自分の力で維持できない方には、使用しないでください。落下して、けがをするおそれがあります。
- 脚スリングの引抜サポートやクロス用補助ストラップ、胸スリングの仕切りベルトは、リフトのハンガーフックに直接掛けないでください。ストラップ、ベルトが破損して落下し、けがをするおそれがあります。



けいこく  
警告

## 背あげ機能のあるベッドでの装着

- ① ベッドの背をあげてください。介護を受ける方の上半身を支えながら少し前に倒してください。もう一方の手で胸スリングを背中に当ててください。胸スリングは背中の中央、胸スリングの上部は肩甲骨より下の位置に当ててください(図5)。(脇の下に近い位置で吊りあげると、肩への負担が加わりますので注意してください)



図 5

- ② 胸ベルトの面ファスナーをしっかりと止めてください。(面ファスナーの重なり部が20cm以上あることを確認してください)(図6)

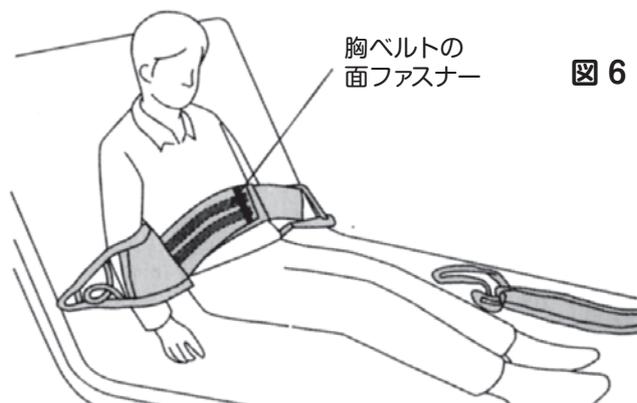


図 6

- ③ 介護を受ける方の膝を立て、脚スリングを両側の太ももの下から通してください(図7)。脚スリングは、太ももの中間位置に装着してください。膝の裏に近い位置で吊りあげてしまうと、お尻が落ち込んだ姿勢になってしまいます(図4)。引抜サポートは、太ももの下を通す場合の補助としてご使用ください。



図 7

- ④ 胸スリング、脚スリングの各ストラップにねじれがないこと、また長さが左右均等になっていることを確認してください。

- ⑤ 胸スリング、脚スリングの各ストラップを図8のようにリフトのハンガーフックに掛けてください。

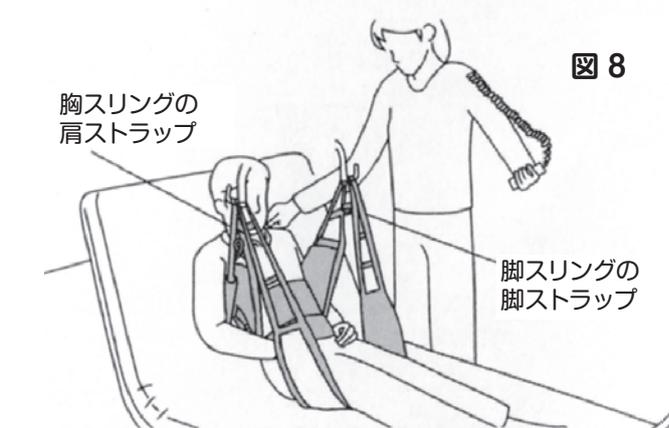


図 8

- ⑥ ストラップがリフトのハンガーフックに掛かっていることを確認して、ゆっくりあげてください。

# セパレートスリング(KQ-T59シリーズ)

## 車いす上での装着

- ① 車いす上での装着方法は、背あげ機能のあるベッドと同じです。  
介護を受ける方の上半身を支えながら少し前に倒してください。もう一方の手で胸スリングを背中に当ててください。胸スリングは、背中の中央、胸スリングの上部は肩甲骨より下の位置に当ててください(図1)。(脇の下に近い位置で吊りあげると肩への負担が加わりますので注意してください)

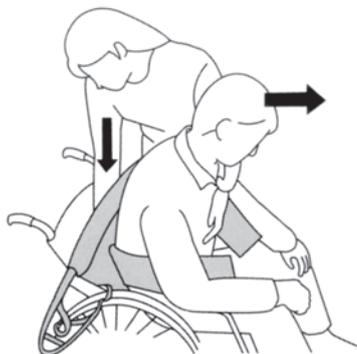


図1

- ② 胸ベルトの面ファスナーをしっかりと止めてください。(面ファスナーの重なり部が20cm以上あることを確認してください)(図2)



図2

- ③ 脚スリングが太ももの中間位置になるように装着してください。膝の裏に近い位置で吊りあげてしまうと、お尻が落ち込んだ姿勢になってしまいます。また、引抜サポートは、太ももの下を通す場合の補助としてご使用ください。(図3)



図3

- ④ 胸スリング、脚スリングの各ストラップにねじれがないこと、また、長さが左右均等になっていることを確認してください。(図4)

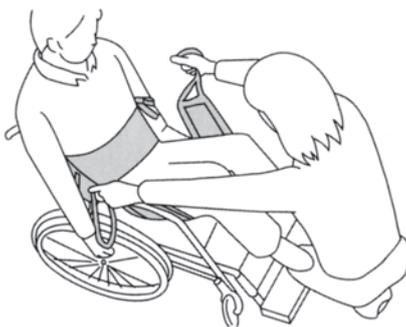


図4

- ⑤ 胸スリング、脚スリングの各ストラップを図5のようにリフトのハンガーフックに掛けてください。

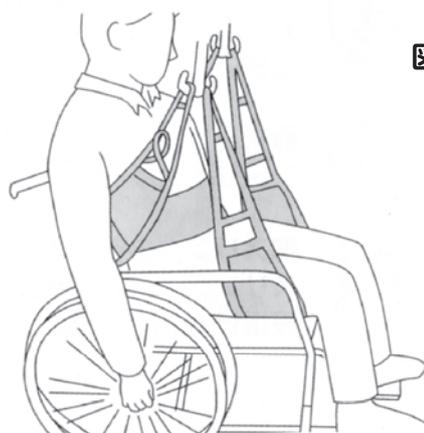


図5

- ⑥ ストラップがリフトのハンガーフックに掛かっていることを確認して、ゆっくりあげてください。

# 車いすへの降ろしかた

車いすへの着座は注意を払う必要がある動作です。車いす上での姿勢が悪いと、介護を受ける方にとって苦痛な時間となります。リフトを使って良い姿勢になるように、ここでは、代表的な着座方法を説明していきます。車いすへの着座方法は車いすの種類や介護を受ける方の状態などによって異なります。

## 車いすへの着座方法は、3つの方法があります

### (1) 車いすを傾けて降ろす方法(図1)

- ① 車いすのブレーキはかけずに前輪をあげてください。  
この時、車いすの背の角度がスリングシートの背の角度より、大きくなるように傾けてください。
- ② 車いすの座面に、お尻が深く着座できる位置で降ろしてください。肩ストラップおよび脚ストラップがゆるんできたらその分だけ車いすを後ろに引きながらストラップが十分にゆるんだことを確認し、車いすの前輪をゆっくりと降ろしてください。



ちゅうい  
**注意**

急に降ろしたり、十分に肩ストラップおよび脚ストラップがゆるんでいない状態で車いすの前輪を降ろしたりしないでください。姿勢が崩れたり、けがをしたりするおそれがあります。

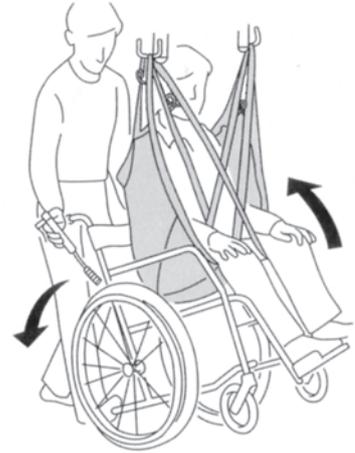


図 1

### (2) 介護用バンドを使って降ろす方法(図2) (KQ-T55,T56,T57,T58シリーズ)

- ① 車いすのブレーキを掛け、介護をする方は介護を受ける方の後ろに回ってください。介護を受ける方のお尻が車いすの座面につく直前にスリングシートの介護用バンドを後方に引っ張ってください。
- ② この時、車いすの前輪が少し浮くくらいの力で引き、お尻が車いすの座面に深く着座できるようにしながらリフトを降ろしてください。

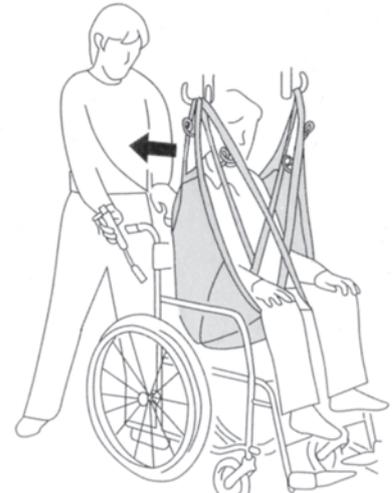


図 2

### (3) 膝を押さえながら降ろす方法(図3)

- ① 車いすのブレーキを掛け、介護をする方は介護を受ける方の前に立ってください。介護を受ける方のお尻が車いすの座面につく直前に右図のように膝を車いすの前輪が浮くくらいの力で押してください。
- ② お尻が車いすの座面に深く着座できるようにしながらリフトを降ろしてください。  
※この方法は、介護を受ける方の膝や股関節に負担をかけますので、膝や股関節に痛みなどの何らかの問題がある場合には行わないようにしてください。

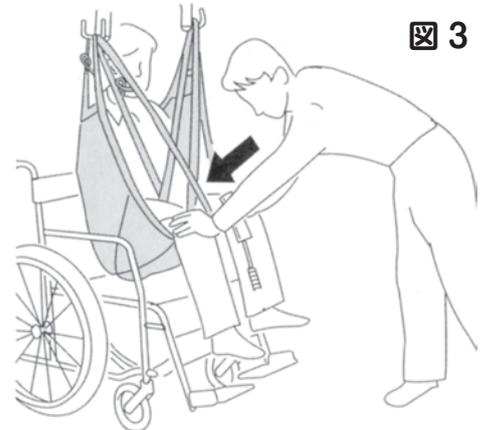


図 3

## スリングシートの抜き取り方法

スリングシートの抜き取り方法は、装着方法と逆の手順で行ってください。

## 日常点検・洗濯方法・保管方法について

スリングシートは、長年お使いになると擦り切れたり、破れたり消耗致します。  
取扱説明書に記載された使用方法でご使用頂いた場合でも3年を目安にお買い換えください。

### ●日常点検

ご使用前(ご使用後)に布が裂けていたり、繊維部分や縫製部分に糸のほつれや劣化がないか、必ず点検してください。

### ●洗濯方法

- ◎ 洗濯機ご使用の前に、必ず付属の洗濯ネットをご使用ください。
- ◎ 液温は40℃を限度とし、洗剤は中性洗剤をご使用ください。  
洗濯機は非常に弱い水流または、弱い手洗いで洗濯してください。  
非常に弱い水流で3分程度洗った後、きれいな水で3分程度すすいでください。
- ◎ 漂白剤による漂白はできません。布やミシン糸を劣化させます。
- ◎ タンブル乾燥はできません。乾燥機の使用は、布やミシン糸を劣化させます。
- ◎ 手絞りの場合は弱く、洗濯機で脱水する場合は短時間で絞ってください。
- ◎ 日陰で平干しをしてください。
- ◎ アイロンがけはできません。
- ◎ ドライクリーニングはできません。
- ◎ ウェットクリーニングはできません。
- ◎ 詳細は製品に表示している洗濯絵表示を参照ください。



スリングシートを洗濯した後は、縫い目や素材に傷がないか、布地が擦り切れていないかを確認してください。傷や擦り切れがあるとスリングシートが破損して落下し、けがをするおそれがあります。

### ●保管方法

直射日光を避けて保管してください。火気は近づけないでください。

## アフターサービスについてご不明な場合

お買い上げの販売店、またはパラテクノコールセンターまでお問い合わせください。

パラテクノコールセンター  0120-54-8639

受付時間／平日 8:00～19:00 土・日・祝日 9:00～17:20(年始は休業いたします)

【パラテクノ株式会社】弊社製品の修理や保守点検などの各種サービスを実施する会社です。

### 商品に関するお問い合わせ

〈パラマウントベッド株式会社〉

本社	〒136-8670	東京都江東区東砂2丁目14番5号	☎ (03)3648-1111 (大代)
東京支店	〒136-8670	東京都江東区東砂2丁目14番5号	☎ (03)3648-1171 (代)
札幌支店	〒060-0062	札幌市中央区南2条西13丁目318番地11	☎ (011)271-1181 (代)
仙台支店	〒984-0015	仙台市若林区卸町2丁目3番地の3	☎ (022)239-5211 (代)
さいたま支店	〒338-0001	さいたま市中央区上落合9丁目4番7号	☎ (048)852-0707 (代)
横浜支店	〒194-0004	東京都町田市鶴間5丁目3番33号	☎ (042)795-8800 (代)
名古屋支店	〒461-0001	名古屋市東区泉1丁目20番17号	☎ (052)963-0600 (代)
大阪支店	〒550-0001	大阪市西区土佐堀2丁目3番33号	☎ (06)6443-8791 (代)
広島支店	〒733-0011	広島市西区横川町3丁目8番5号	☎ (082)293-1311 (代)
福岡支店	〒812-0013	福岡市博多区博多駅東3丁目14番20号	☎ (092)461-1131 (代)